



## 翻訳虎の巻ダイジェスト版

【翻訳に求められるスキル】

【翻訳の3分野】

【翻訳とチェックと通訳と】



## 【翻訳に求められるスキル】

翻訳に求められるスキルとは、何でしょう？

翻訳に求められるスキルは、

おおざっぱに言うと3種類、と私はよく言っています。

語学力(ソース言語、ターゲット言語とも)、専門知識、調査能力

この3つです。

語学力が必須なのは説明不要だと思います。

語学力と言っても、英語ばかり勉強して

日本語がおろそかになってしまっは

意味がありません。

語彙力を増やしたり、正しい用法を身に付けたり、

やることはたくさんあります。

ビックリしたことがあるのですが、

「敷衍が高い」「確信犯」などは

間違った意味で使ってる方が多いそうです。

また、専門知識がないと、原文をよく理解できず、

正しい翻訳文を書けません。

原文にミスがあれば、

必要に応じて申し送りをします。

これは、専門知識がないと恐らく原文のミスに気づけないでしょう。

例えば、日英の特許明細書を翻訳する時、

米国出願とわかっていたら、

【書類名】明細書

は何と訳しますか？

Description ではなく Specification としなくてはなりません。

私が駆け出しの翻訳者だった時の話です。

以前、翻訳コンテストに応募した事があるのですが、

少し古い歴史小説が課題でした。

work like the devil というフレーズがあり、

私は迷わず「鬼のように働く」と訳しました(Lenny Kravitz ではありませんよw)。

実は、鬼のように働くという言葉は 1980 年代から出てきた言葉で、歴史小説には不向きで

す。

専門知識、とまでは言いませんが、

翻訳をする際知る必要がある事です。

また、専門知識があっても、

知らない事は必ず出てきます。

原文で知らない事や調べてもわからない事があっても、

必ず訳さなければなりません。

その時に必要なのが調査能力です。

何も難しい事ではなく、辞書、インターネットや書籍等で調べられます。

調べものについても、虎の巻で触れていきます。

辞書、インターネット、書籍で調べる事が一般的ですし、

その分野に明るい人に聞くのも良いでしょう。

ただし、調べ方を間違ってしまうと、

解決できなかったり、無駄な時間を費やしたり、あまりメリットはありません。

インターネット検索で使える簡単な検索術もあります。

これはどの分野の調べものでも使えますが、

""(ダブルコーテーション)を括って

単語やフレーズ、センテンスを検索すると、

完全に一致するものだけ検索にひっかかります。

それから、キャッシュや履歴をこまめに消すのも良いでしょう。

私は chrome では常に Incognito モードで見えています。

そうすれば、履歴として残りません。

他にも、特定の web サイト内での検索に役立つコマンドを紹介します。

Web サイトを開いて、

「Ctrl+F」で検索すると、

そのページ内の単語を検索できます。

しかし、それではそのページからしかピックアップできません。

そこで、サイト内検索が役に立ちます。

特定の Web サイト全体を検索の対象にできます。

Google での検索に使えるコマンドが、

「site:」です。

このコマンド+スペース+検索したい文字列

これで検索をかけると、非常に便利です。

他にも、ワイルドカードや正規表現というのをご存知ですか？

python や javascript などにもあるのですが、

任意の文字列や書式などを表現できるメタ文字です。

例えば、word 内の全角数字だけを半角にしたい場合。

Ctrl+A で半角にしてしまうと英字やカタカナまで半角になってしまいます。

ですが、1 個 1 個作業するのも手間ですし、

3 個くらい見落としそうですw

そんな時に、ワイルドカードの出番です。

word の検索ウィンドウでワイルドカード検索を有効にし、

[0-9]で全角数字だけ検索、選択することができます。

さらに、2 つくらいボタンを押すだけで、

文書内全ての対象の文字列を置換することができます。

文献などの調べものではないのですが、

原文や参考資料などからの調べもので使えます。

納品前にチェックをかけることで、ミスが減らせます。

また、修正も正確に、効率よく行えるので、

是非使ってみてくださいね。

[0-9]

[ 0 - 9 ]

^w^p

この3つはメツチャ使ってますw

半角、全角数字を表すワイルドカードと、

最後は正規表現で、スペースと改行を表すメタ文字です。

英文を打っていて、

ピリオドのあとにスペースを押して改行してしまうこと、ありませんか？

特に問題はないのですが、

私は気になってしまうので消しています。

手動で消すとミスのリスクが伴うので、

検索する文字列：^w^p

置換後の文字列：^p

で置き換えます。

(あいまい検索やワイルドカードのチェックボックスは外します)

あなたは、マクロというものを知っていますか？

エクセルのVBAは使ったことある方、

多いのではないのでしょうか？

わざわざ一つずつ入力や転記すると、

手間ですしミスも増えます。

そこで、ある程度法則があるものは、

マクロという簡単なプログラムを組んで

半自動化、自動化することができます。

私はエクセルで帳簿を付けているのですが、

借方の金額を貸方に転記するマクロ、

作表のマクロなどを自作して使っています。

Wordでもマクロを実装することができます。

私が使っているのは、

段落番号降り直しマクロ

体裁の調整マクロ

などです。

自作することもできるので、

興味がある方は学んでみるのも良いかもしれません。

ネットで調べると様々なマクロが出てきますが、

バッチファイルをダウンロードするとウイルスに感染してしまう悪質なものの中にはある  
ので、

くれぐれも気を付けてくださいね。

その3つ以外にも、必要とされるスキルが多数あります。

ワードやパワーポイントファイルのフォーマティングや作表等が必要な翻訳案件もあり、

そういったPCスキルがある程度必要です。

また、社内で行う方や、

フリーランスの方、専業の方、兼業の方、

生業でない方と、様々です。

もしフリーランスであれば、

自身のスケジュール管理や

クライアントとのやりとり(ビジネスマナー等)、

ある程度のマーケティング、営業、経理能力が必要になります。

意外にもビジネスの勉強をしていない方や、

ビジネスメールを書けない方が一定数みられるので、

昔は私も驚いていました。

## 【翻訳の3分野】

翻訳の3分野と聞いて、

何を思い浮かべますか？

特許？金融？IT？

翻訳業界は、ざっくりわけて3分野とされています。

それは、産業翻訳(実務翻訳)、出版翻訳、映像翻訳です。

特許翻訳は、産業翻訳(実務翻訳)にあたります。

また、ゲーム翻訳は3分野すべての要素を含みます。

これらの3分野はご存知でした？

それとも初めて知りましたか？

特許翻訳は産業翻訳ですが、

せっかくなので、出版翻訳や映像翻訳についても

紹介します。

まずは出版翻訳です。

出版翻訳はわかりやすく言うと本を翻訳することです。

本と言っても、子供が読む児童書、ヤングアダルト、フィクションやノンフィクション、

対象年齢や分野もそれぞれです。

印税で支払われることがほとんどですが、

翻訳前に版權を支払うものもあるそうです。

翻訳以外にも、シノプシスという

あらすじや評価をまとめたものを作成する業務もあります。

また、出版翻訳でも多分野に細かな分類があるように、

映像翻訳と一言で言っても、様々な分野があります。

映画やドラマなどをイメージするとわかりやすいと思います。

まずは字幕。映像や音声はオリジナルのものを使い、

字幕作成ソフトを使って字幕を作成します。

そして吹替。映画によっては字幕だけではなく吹替もありますね。

アニメであれば、字幕ではなく吹替が適切です。

そしてボイスオーバー。吹替と似ていますが、

オリジナルの映像、音声にオーバーラップした形になります。

まずは字幕です。

字幕は、ただ訳をテキスト化すれば良いわけではありません。

台詞 1 秒間につき、4 文字分の字幕しか使えません(例外もあります)。

また、基本的には常用漢字しか使えません。

例外的に常用漢字ではない漢字を使う場合は、

ルビをふる処理をします。

字幕制作ソフトを使って、

スポッティングという作業もします。

音声ファイルの波形から、字幕をつけるタイミング、消すタイミングなど編集をします。

私はフェローで学習中、

指をおりながら訳を考えていましたw

きっと、学習者ならあるある話ですw

前回の虎の巻では、翻訳の3分野について、

そして映像翻訳について紹介しました。

今回も映像翻訳について紹介したいと思います。

前回は字幕翻訳について紹介しましたが、今回は吹替についてです。

海外の映画やドラマがお好きな方はお気づきでしょうが、

字幕と吹替では訳がだいぶ違う場合があります。

それは、誤訳ではありません。

字幕と吹替でルールが違うからです。

吹替では、話者の口の動きと台詞があってなければなりません。

口を閉じているのに話していたり、

口が開いているのに何も話していなかったり、

不自然なことがないように訳を合わせる必要があります。

吹替では声優さんが見る原稿を作る必要があります。

訳だけではなく、何かきっかけになるような事やト書き等も原稿に書きます。

最近ではVTuberが増えたこともあり、

優秀な口パクツールも出てきています。

アニメーションで、音声に合わせて口パクを変える技術もあります。

吹替翻訳にも変化がありそうですね。

そして、産業翻訳(実務翻訳)です。

翻訳業界の市場の9割を占めるのが、この産業翻訳です。

特許翻訳もこの産業翻訳の一部です。

他にも、契約書、医療、IT、ウェブサイト、金融、、、

挙げ出したらきりがありません。

ご自身の専門を生かすことができます。

守秘義務が多く、

取扱いや管理が大変なところや、

納期がタイトな案件もありますが、

産業に貢献できますし、

日本と海外との橋渡しができるので、

非常にやりがいのある仕事です。

【翻訳とチェックと通訳と】

言語には文字言語と音声言語というジャンルがあります。

書き言葉と話し言葉、文語と口語、

なんて聞いた事はありませんか？

それから、

相手とその場で話していたら上手く伝えられるのに、

メールでは上手く文章を書けないなあ…とか、

インタビュー本やシェイクスピアのような脚本って読みづらいなあ、

セミナーの音声とその書き起こしって結構違うなあとか、

紙に書いた原稿を読むとなんだか堅苦しいなあと、

思った事はありませんか？

それは、文字言語と音声言語が違うからです。

因みに、音声言語しか持たない言語はありますが、

文字言語のみで存在する言語はありません。

例えばアイヌ語には文字がなく、音声言語だけで成り立ちます。

そういった言語は文献に残りづらいという特徴があります。

人間の脳では、

文字言語が得意か、音声言語が得意か、

それは人によって異なります。

翻訳では文字言語が、通訳では音声言語が、

主に使われる事はおわかりだと思います。

翻訳と通訳の両方をされている方が結構いらっしゃいますが、

やはり翻訳も通訳も同じくらい得意という方は非常に少なく、

どちらかが長ける方が大半です。

翻訳はマラソン、通訳は短距離走によく例えられますが、

じっくりミスのない良文を仕上げるタイプと、

情報処理に対する瞬発力があるタイプという考え方もあります。

「アクティヴメモリ」と「パッシヴメモリ」

という言葉をご存知ですか？

最近増えている RFID にも、

アクティヴタグ、パッシヴタグというものがあります。

アクティヴは能動、パッシヴは受動とも言われます。

例えば、読めるけど書けない漢字。

聞けばわかるけどいつも思い出せない言葉。

これは、パッシヴメモリに格納されています。

それに対し、すぐに思い出せるものはアクティヴメモリ、

とざっくり考えて良いでしょう。

通訳と翻訳で求められるスキルの差はいくつかあります。

その一つが、アクティヴメモリの重要性にあると言えます。

通訳では瞬発力が必要です。

どれだけアクティヴメモリのストックがあるかが鍵になります。

翻訳ではアクティヴメモリが不要なの？と思われたかもしれませんが。

実はそうではなく、ある程度必要。

でも通訳ほどではない、といつも伝えています。

瞬発力はさほど求められないからです。

とは言え、私は原文を読むのとほぼ同じスピードで訳しています。

翻訳にはチェックと言う工程があります。

これは校正、レビュー、等様々な呼び方があります。

これも、アクティブメモリがある程度必要です。

でも通訳や翻訳ほどではない、となります。

しかし、ミスに気づき直すスキルが必要ですから、

全く別のスキルが求められます。

実際はどんな仕事かというと、

PC画面に原文と翻訳文を並べて、

訳抜けや誤訳、誤字脱字等のエラーがないかみます。

エラーがない場合はすっ飛ばし、

エラーがあれば修正します。

私は長らくチェックの仕事をしていて、

フリーランス時代は年間 300-400 万ワードは

みていたのではないかと思います。

(私は3時間で1万ワード(PDFで30枚)ほど処理します。かなり速いほうです)

翻訳では私は主に化学しか引き受けませんが、

チェックだとITや医療等、翻訳しない分野に関わられますし、

バックエンド側、完成品を作るという事にやりがいがありました。

今は翻訳学校で講師をし、個人的にも生徒を抱えているので、

課題の添削と翻訳文のチェックは非常によく似た作業と言えます。

どんなスキルが必要かというと、

文法的解釈、文脈的解釈、技術的解釈、フォーマティング…

ファーストライターや翻訳者のミスを見つけられる能力、

ミスを正しい翻訳文に直せる能力…

チェッカーが求められるスキルは翻訳者以上です。

イメージとしては、

学校の先生が生徒の作文を赤ペン入れて返すのと同じで、

先生が正しい文法をわかっていないと直せない、

というところにあります。

私自身講師として添削やトライアルの採点等をしていますが、

下積み時代はミスを見逃してしまうなんていう、

恥ずかしいミスをしていました。

一方通訳では、

事前に案件に関する調べものや勉強が必須です。

1日に単語を100個覚えて通訳したというお話を聞いた事があります。

原文に一字一句忠実な訳よりも、

会話が成り立つスピードで過不足なく訳すスキルが必要です。

私は通訳学校に行ったこともありません。

やはり翻訳学校と同じで、

課題が多く、授業は復習がメインでした。

他の皆さんは私と違って英語力が高く、

肩身が狭かったので

必死になって勉強していましたw

その中の課題でよく覚えているのが、

ペーパーバックや新聞の多読、

課題文の暗記、時事に関する単語の暗記

などでした。

課題からみても、暗記が多く、アクティヴメモリが問われました。

また、読んで理解できないということは

聞いても理解できないということなので、

ペーパーバックの速読(決して精読ではありません)と

とっさの情報処理能力が問われました。

これは実際の現場でも同じです。

暗記(人の名前や会社名、製品名など)、

発言者が言った事を一定時間記憶するリテンションなどの能力が問われます。